

視点

県内企業の振興・発展を目指して —ワクワク・沸々 SAITEC—

埼玉県産業技術総合センター
センター長

牟田口 照恭



埼玉県産業技術総合センター(以下、SAITEC)のセンター長に就任してから、まもなく1年になります。

SAITECは、県内企業の振興・発展を目的に本所(川口市)と北部研究所(熊谷市)の二拠点にて発足した公的な試験研究機関です。支援内容として、次の3つを大きな柱としています。

- (1)技術支援：企業さんの日常的な課題解決のために、無料の技術相談をはじめ幅広い分野での測定・分析等を実施しています。また、自ら測定データを取得したいというニーズにこたえるために、機器の開放も実施しています。
- (2)開発支援：企業さんの研究開発ニーズに対応するためにSAITECが保有する技術・研究シーズの活用を図っています。受託研究という形での個別契約も可能です。また、県の産業振興政策に沿った戦略的な研究も実施しています。
- (3)情報・交流：研究発表会や技術セミナー、講演会等を開催し、技術トレンドの変化に対する気付きの機会と場の提供を図っています。このように業務は多岐にわたりますが、企業さんからの感謝の声を頂くことが何よりの達成感となっております。

さて、私は民間企業出身者としてセンター長を仰せつかっているのですが、その視点で公的機関を見る中で、いくつか感じたことがあります。

まず、年度単位のスケジュールにとらわれ過ぎている感があります。変化の時代に対応するためには、適切な時間軸でのスケジュールが必要です。プロジェクトチームの構築やロードマップの作成などにより、スピード感

- を持って業務を進めるよう取り組んでいます。
- 次に、予算の硬直性も気になります。これについては、決められた枠の中で最大限効率的な運用ができるよう努力しているところです。
- また、技術の大きな潮流、すなわちメガトレンドの把握とそれへの対応も重要です。世の中の技術がどこへ向かおうとしているのかを見極め、その流れの中で得意分野(優れた分野)と特異分野(他社にはできない分野)を持つことが、企業の成長・発展には欠かせません。そのためにも、トレンドに対するアンテナを高くし、SAITEC自身も保有する技術領域の拡大を目指してまいります。
- 年度や予算に縛られずに喫緊の課題に取り組んだ事例を紹介しましょう。
- まずは、大震災からの復興支援のために工業製品の残留放射線量測定を開始しました。近県の中でもいち早く実施し、多くの企業さんからの測定依頼を受けました。昨年末までの測定数は約500検体になります。
- また、電力供給不足に対応した節電・省エネ支援も実施しました。昨年末までに約80件の支援を行いSAITEC自身の施設でも25%のピークカットを実現しました。省エネセミナーも単に開催して終わりではなく、企業マッチングまで織り込んだ枠組みで開催しました。
- 取り組むべき課題は多々あり、中にはハードルが高いものもありますが、他県の公設試験研究機関とも連携し、県内企業さんからの要請に応じてワンストップで対応していきたいと考えています。
- 新しい技術が沸々と湧き出るSAITEC、企業さんがワクワク感動したまた来なくなるSAITECを目指してまいります。是非SAITECをご訪問、ご活用ください。